

< 付 属 書 >

付属書1．施設内サーベイランス

サーベイランスは、特定の疾患や出来事（event）についての発生分布や原因に関するデータを、系統的に収集、解析、解釈し、この情報をもとに立案、実施し、評価するものである。サーベイランスの実施は、リスクを評価し、対策の効果的に立案できる。具体的には、施設毎の状況に合わせて下記を参考にサーベイランスを実施する。

- (1) サーベイランスの対象事項（例；呼吸器症候群の時間的集積等）
- (2) サーベイランス対象集団（例；従事者、展示動物等）
- (3) 情報収集方法と体制（例；毎日、毎週、毎月サーベイランス担当者の割り当て）
- (4) 情報解析（例；症候群数の時系列表示等）
- (5) 情報の還元（例；従事者間、来園者等）
- (6) サーベイランス情報に基づいた危機管理体制の構築（例；感染症対策委員会の体制）

付属書2．予防接種（付属書2）

予防接種の実施については、医師と十分協議のうえ、施設の実情に見合ったものを選択すること。

（施設によっては必要ない）

- (1) 破傷風（予防）
- (2) 狂犬病ワクチン（予防）
- (3) ワイル病秋やみ（予防）
- (4) はぶトキソイド（緊急時）

付属書3. 感染症法に規定されている疾病の内、動物を原因とした人感染の発生が想定される疾病

感染症法における全数把握疾患は、1～3類感染症、および4類感染症・全数把握疾患である。

感染症法においては、人と動物の共通感染症の内、全数把握疾患に含まれるもの（対象動物はエボラ出血熱に感染したサル等）については獣医師にも報告義務がある。

感染症法に規定される疾病

- 1類感染症： エボラ出血熱、 クリミア・コンゴ出血熱、 ペスト、 マールブルグ病、 ラッサ熱
- 2類感染症： 細菌性赤痢
- 3類感染症： 腸管出血性大腸菌感染症
- 4類感染症：

[全数把握の対象]

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. アメーバ赤痢 | 13. ツツガムシ病 |
| 2. ウエストナイル熱 | 14. デング熱 |
| 3. エキノコックス症 | 15. 日本紅斑熱 |
| 4. 黄熱 | 16. 日本脳炎 |
| 5. オウム病 | 17. ハンタウイルス肺症候群 |
| 6. 回帰熱 | 18. Bウイルス病 |
| 7. Q熱 | 19. ブルセラ症 |
| 8. 狂犬病 | 20. 発疹チフス |
| 9. クリプトスポリジウム症 | 21. マラリア |
| 10. ジアルジア症 | 22. ライム病 |
| 11. 腎症候性出血熱 | 23. 急性脳炎 |
| 12. 炭疽 | |

付属書4 . 家畜伝染病予防法に規定されている対象疾病と対象動物で、動物を原因とした人感染の危険性のある疾病

監視伝染病（家畜伝染病）

対象疾病	対象動物
流行性脳炎（日本脳炎、西部馬脳炎、ベネズエラ馬脳炎等のアルボウイルス感染症）	牛、馬、めん羊、山羊、豚、水牛、しか、いのしし
狂犬病	牛、馬、めん羊、山羊、豚、水牛、しか、いのしし
リフトバレー熱	牛、めん羊、山羊、水牛、しか
炭疽	牛、馬、めん羊、山羊、豚、水牛、しか、いのしし
ブルセラ病	牛、めん羊、山羊、豚、水牛、しか、いのしし
結核病	牛、山羊、水牛、しか
鼻疽	馬
家禽ペスト	鶏、あひる、うずら、七面鳥
ニューカッスル病	鶏、あひる、うずら、七面鳥
家きんサルモネラ感染症（サルモネラ・ブローラム、サルモネラ・ガリナルムに限る）	鶏、あひる、うずら、七面鳥

監視伝染病（届出伝染病）

対象疾病	対象動物
類鼻疽	牛、水牛、しか、馬、めん羊、山羊、豚、いのしし
レプトスピラ症（レプトスピラ・ボモナ、レプトスピラ・カニコロー、レプトスピラ・イクテロヘモリジア、レプトスピラ・グリボティフォーサ、レプトスピラ・ハージョ、レプトスピラ・オートムナーリスおよびレプトスピラ・オーストラーリスによるものに限る。）	牛、水牛、しか、豚、いのしし、犬
サルモネラ症（サルモネラ・ダブリン、サルモネラ・エンテリティディス、サルモネラ・ティフィムリウムおよびサルモネラ・コレラエシスによるものに限る。）	牛、水牛、しか、豚、いのしし、鶏、あひる、七面鳥、うずら
牛カンピロバクター症	牛、水牛
トキソプラズマ	めん羊、山羊、豚、いのしし
ニパウイルス感染症	馬、豚、いのしし
馬モルビリウイルス肺炎	馬
野兔病	馬、めん羊、豚、いのしし、兎
マエディ・ピスナ	めん羊
豚丹毒	豚、いのしし
鳥インフルエンザ	鶏、あひる、七面鳥、うずら
牛丘疹性口炎	牛、水牛
仮性皮疽	馬
伝染性膿疱性皮膚炎	しか、めん羊、山羊
ナイロビ羊病	めん羊、山羊

(注) 家畜へ感染した場合の重要性を基準としたものであるため、人への感染性、感染した場合の重要性についての基準とはならない。

付属書5. 動物グループ別の感染症重要度分類

動物群	対策を必要とする動物		感染症の重要性				
	霊長類(ヒトを除く)		エボラ出血熱 マールブルグ病	Bウイルス病、 黄熱	細菌性赤痢、赤痢アメーバ、モンキーボックス、結核、デング熱、	糞線虫症 ジアルジア症	
	鼠族、節足動物、齧歯類(プレーリードック、マストミス等を含む)	a 侵入動物		ラッサ熱、ペスト、ハンタウイルス肺炎候群、腎症候性出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、 黄熱、ウエストナイル	日本脳炎 、リンパ球性脈絡髄膜炎、トリパノソーマ症、デング熱、マラリア等 ^(注) 、リフトバレー熱、 Q熱、サルモネラ症、日本紅斑熱、つつが虫病、ライム病、レプトスピラ症野兔病	発疹熱、発疹チフス、鼠咬症、リーシュマニア症、回帰熱、 広東住血線虫症	
		b 研究用・愛玩用		ラッサ熱、ペスト、ハンタウイルス肺炎候群、腎症候性出血熱	リンパ球性脈絡髄膜炎、 日本紅斑熱、野兔病	発疹熱、鼠咬傷	
a	ネコ		狂犬病		野兔病、ライム病、レプトスピラ症	仮性結核、トキソプラズマ症	トキソカラ症
	アライグマ スカンク等						
	キツネ		狂犬病		エキノコックス症(多包虫症)		
	コウモリ		狂犬病	リッサウイルス病、ニパウイルス病、 ヘンドラウイルス			
	他に属さないヒトが飼育する可能性のある動物		(狂犬病)		サルモネラ症		
	鳥類			ウエストナイル 、(クリミア・コンゴ出血熱)	オウム病、 ライム病		クリプトコッカス症
b	イヌ		狂犬病		トリパノソーマ症、レプトスピラ症、ライム病、エキノコックス症(多包虫症)	仮性結核、リーシュマニア症、野兔病	ジアルジア症、トキソカラ症、糞線虫症、ブルセラ症、パスツレラ症
	家畜(ブタ、ウシ、羊・山羊、ウマ)、家禽		狂犬病	炭疽	リフトバレー熱、結核、 腸管出血性大腸菌感染症 、リステリア症、 サルモネラ症、エキノコックス症(単包虫症) 、 Q熱、レプトスピラ症、ライム病	鼻疽、ブルセラ症、トキソプラズマ症、	クリプトスポリジウム症、ジアルジア症、肝蛭症、 エルシニア症、類丹毒、カンピロバクター症

(注)バンクロフト系状虫症、マレー系状虫症、オンコセルカ症、ロア系状虫症等を含む

太字で示した病原体は、1997年の評価から変更のあった病原体。

付属書 6 . 動物園の消毒について

感染症ガイドライン(動物園水族館協会感染症対策委員会)を改変

(1) 消毒方法

動物園の消毒は、動物舎内消毒、放飼エリアの消毒、係員の消毒の3つに大きく分けられる。

(図1)

動物舎内の消毒

消毒の基本は物理的に汚染を除去すること、すなわち日々の清掃である。糞等の有機物が多く残っていれば、いくら消毒薬を使っても効果はない。

日々のきちんとした清掃を前提にして、1カ月に1回、清掃、水洗、乾燥の日々の清掃後に動物舎内を規定の倍率に希釈した消毒剤で、噴霧器等を用いて、十分に獣舎の床や壁が濡れるよう噴霧する。建物が締め切れる構造なら、消毒後は閉め切って1時間以上置き、その後、乾燥させる。

消毒剤には目的により塩素系の消毒剤・逆性石鹼系消毒剤・両性石鹼系消毒剤・ハロゲン塩消毒剤・複合消毒剤がある(別表1参照)が、塩素系や逆性石鹼系消毒剤が有効範囲が広く使い易い。

噴霧器は手押し式でも良いが、スチームクリーナー、ガソリンエンジン式動力噴霧器、畜産用電気噴霧機等は、薬液タンクが大きく、動力もあり、大きな動物舎等には使い易い。

放飼場エリアの消毒

通り抜け展示場や動物とのふれあい会場になっている所は、観客と接する機会が多く、また、エリアのいたるところで動物が排泄するために、エリアは汚染されがちである。清掃を励行し、毎月消毒液を噴霧していても、汚染が土壌に染み込んでいるため、定期的に根本的な土壌の消毒と土の入れ替えが必要である。年に1回これらの処置を実施するのが望ましい。

その方法はエリアに消石灰またはさらし粉を散布してから深さ30cmを掘り起こしてこれを搬出したあと、消石灰またはさらし粉を散布し、新鮮な土を入れる。搬出した土は焼却または埋却する(家畜伝染病予防法参考)。

飼育係員の消毒

飼育係員自身の消毒は、動物への感染防止というより飼育係員の労働安全の確保のため、大変重要である。また、エリアからエリアへと感染を広げないためにも重要である。

まず、手指と長靴の消毒として係員は動物エリアから出入りの際、手指・長靴を規定倍希釈した逆性石鹼系消毒液浸潤または浸漬し消毒する(手洗槽と踏み込み槽による消毒)。なお、この液は汚れたらこまめに交換する。また、飼育係員は70%消毒用エタノールスプレー等を常時携帯し、気になるときはいつでもどこでもスプレーして、消毒するのが望ましい。

図1 消毒方法

1. 獣舎内消毒（1 ヶ月に1 回）
 - 1) 獣舎の清掃、糞出し
 - 2) 水洗（水、ブラシ洗い）
 - 3) 乾燥（自然）
 - 4) 規定濃度の薬剤を電気噴霧機で、噴霧する。または、十分に清拭する。
（床、壁、天井等が十分濡れる位）
 - 5) 閉め切って、1 時間置く。
 - 6) 乾燥
2. 放飼場エリアの消毒（年1 回）---消石灰以外の土壌消毒に効果のある薬剤オルソ剤（商）ゼクトンを用いる場合
 - 1) エリアの清掃、糞出し
 - 2) ゼクトン 100 倍を散布する。
 - 3) 表土を 10 cm 掘り起こし搬出する。
 - 4) 再度、ゼクトン 100 倍を散布する。
 - 5) 新しい土を出したより多めにいれ、整地する。
 - 6) 最後にゼクトン 100 倍を散布し完了。
3. 係員の消毒
 - 1) 手指の消毒 規定濃度の消毒薬に浸漬消毒する。
 - 2) 長靴の消毒 規定濃度の消毒薬の踏み込み槽で浸漬消毒する。
 - 3) その他 70%エタノールスプレーを常時携帯し、気になるさいスプレーする。

(2) 感染症発生時の消毒について

一類ウイルス感染症（ウイルス性出血熱：エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、マールブルグ病、ラッサ熱）が発生した時の消毒について

A. 治療、処置、飼育対策

体液、血液、尿、糞便、吐物等の接触等により感染するので、シングルユース（ディスポージャーブル）の物を使用し、汚染物は二重のプラスチック袋に入れて、外袋を消毒した後に運搬し、高温焼却する。密閉用容器（回収用コンテナ）に密封した器材類は容器の外側を消毒した後に運搬し、適切に滅菌処理する。

針刺し切創事故に注意し、血液飛沫をうけないような防御を行なって処置に臨む。

消毒の際は手袋、ガウン、マスク、ゴーグル、シューカバー等を着用して行なう。

消毒後の物品に対して、可能なら高圧蒸気滅菌を行なう。

B. 汚染物の消毒

患獣の血液、分泌物、排泄物、飼育に使用した器材

患獣の血液、分泌物、排泄物等の消毒には0.05～0.5%次亜塩素酸ナトリウムによる清拭や30分浸漬、ジクロイソシアヌール酸ナトリウム顆粒（プリセプト顆粒）を用いても良い。また、金属製品は2～3.5%グルタラールに30分浸漬が適している。なお、アルコール（消毒用エタノール、70%イソプロパノール）の30分浸漬も有効である。

熱水は80～10分間が必要である。

一類細菌感染症（ペスト）、細菌性赤痢、ブルセラ症、野兔病、鼻疽、類鼻疽、レプトスピラ等が発生した時の消毒について

A. 治療、処置、飼育対策

のウイルス性感染症と同じ。

B. 汚染物の消毒

ペスト菌に対してはすべての消毒薬が有効である。第4級アンモニウム塩（オスバン、ハイアミン）、次亜塩素酸ナトリウム、消毒用エタノール等を用いる。また、80 10 分間の熱水も有効である。

(3) 家畜伝染病発生時の消毒について

ここで述べる家畜伝染病は「家畜伝染病予防法」に基づくもので25の疾病があるが、罹患動物種が限定されている。動物園動物はこの法には適用しない動物種も多いが、この法に準じた消毒を行なう。

焼却

焼却を行なう場合は、死体および汚物品は家畜伝染病予防施行規則に準じて、死亡獣畜を焼却する施設を有する死亡獣畜取扱場^(注)または、人家、飲料水、河川、道路に近隣しないところで人や家畜が接近しない場所で完全に焼却し灰や骨は埋却する。

(注) 死亡獣畜取扱場；死亡獣畜を解体し、埋却し、又は焼却するために設けられた施設又は区域で、死亡獣畜取扱場として都道府県知事の許可を受けたものをいう。化製場等に関する法律で獣畜とは、ウシ、ウマ、ブタ、メンヨウ、ヤギをさす。

埋却（可能な場合）

埋却を行なう場合は死体の上に厚く生石灰をまいてから地表まで1m以上の深さとする。

蒸気滅菌

被服、器具、布等は100 以上で1時間以上の高圧蒸気滅菌を行なう。

煮沸消毒

被服、器具、布等は全部水中に浸し、1時間以上煮沸消毒する。

薬物消毒（消石灰、さらし粉、石炭酸水、ホルマリン）

畜舎床、糞尿、汚水溝、土地等は消石灰の粉末、さらし粉、さらし粉水、石炭酸水、ホルマリン水、クレゾール水、塩酸食塩水、2%苛性ソーダを散布する消毒を行なう。

ホルムアルデヒドガスを発生させてガス消毒も行なう。

消毒用アルコールは綿花に浸漬したもので、清拭する。

(4) ふれあいイベント等における来園者への対応

(1)～(3)までの通常の管理に加えて、来園者が安心して、動物とふれあえるよう、厳しく衛生管理を行なう必要がある。手洗場やトイレには石鹼を常備しておく。

参加者へ、注意をよびかける。

- ・手洗いの励行、糞を素手でさわらない。汚れたと思われた時は、早めに流水と石鹼で手を洗う。

- ・体調の悪い人は早めに申し出る。参加に気が進まない人には無理強いをしない。

飲食物の安全性の確保

- ・「動物と接触する区域」での飲食を禁止し、来園者が所持する飲食物と動物とが接触しないように注意喚起する。

- ・飲食前の手洗いを励行させる。

(5) 動物輸送箱の衛生管理

検疫前の動物を収容した動物輸送箱は、汚染されているという前提で清掃消毒する。特に輸送時間が長い時は、糞尿の汚れも著しいため、二次感染を防ぐためにも取り扱いには気をつけなければならない。

輸送箱等を再利用する場合は、

1. ゴム手袋着用の上、清掃する。汚物は焼却する。
2. 水洗する。汚水は周囲を汚さない様衛生的に処置する。
3. 消毒薬にて浸漬消毒する。
4. 浸漬できない素材や大型輸送箱の場合は水洗後、密閉できる容器、部屋、天幕あるいは防災シート等を用いてホルマリン燻蒸消毒等を行なう。
5. 消毒後、乾燥して臭気が抜けたらビニール等で包んで衛生的に保管する。

ホルマリン燻蒸消毒

1m³につき、局方ホルマリン 15g : 固形サラシ粉 7.5g : 水 15g の割合で容器に混ぜ、ホルマリンガスを発生させ、7時間以上燻蒸する。

ホルマリンガスの中和に強アンモニア水を局方ホルマリンの半量を注入し、30分後排気する。

なお、使用後のホルマリンやアンモニア水の廃棄は医療廃棄物処理に従って処理すること。

(6) 消毒薬の使用上の注意

有機物の影響を受けやすいものがあるので、糞尿、血液等はあらかじめ、洗い流す。

(クレゾール石鹼やグルタラールは有機物の影響を受けにくい。)

塩素系(次亜塩素酸ナトリウム)は金属、毛、ナイロン、一部のプラスチックやゴムを劣化させるので使用する時、気をつける。

またアルコール系も一部のプラスチックやゴムを劣化させることがある。

グルタラール系は最も強力な消毒剤であるが、蛋白凝固作用による消毒なので、毒性も強い。

蒸気は眼や呼吸器を刺激し、皮膚を変性させるので、取扱時には換気の良い場所でプラスチックエプロンとゴム手袋を着用し、蒸気にふれる可能性がある場合は防毒マスクと保護メガネを着用する等十分に注意する。

消毒した器材は十分に水洗して用いる。

塩素系（次亜塩素酸ナトリウム）は高濃度で刺激性が強い。酸性の洗剤や洗浄剤と併用すると、大量の塩素ガスを発生し、非常に危険なので注意する。ゴム手袋と塩素ガス用のマスクを着用し、過って誤飲した場合は牛乳や生卵で不活化する。

消毒用アルコールは粘膜や損傷皮膚に刺激性があるので注意する。

アルコールは引火性があるので、火に注意する。

クレゾールは腐食性の強い消毒剤なので、人体には使用しない。また、ゴム、プラスチック、布に吸着され、その後なかなか除去できないので、注意する。

ホルマリンガスによる消毒は刺激性が非常に強いので、ガスに触れないように注意する。また、ガスの中和にはアンモニアを用いる。

(7) その他

病原体で汚染された機器、器具等について

基本的には使い捨てとする。使用後は消毒、滅菌等の処置を施し安全に処分する。

病理解剖時の処置について

解剖室等で行ない、汚染は最低限に抑えるようにする。

手袋は使い捨てとし、使用した器材・解剖室も速やかに消毒する。

死体は速やかに焼却処分を行なう。

検疫で異常が認められた動物に使用した輸送箱について

使用後は消毒、滅菌後安全に処分する。

付属書7. 消毒薬一覧 感染症ガイドライン(動物園水族館協会感染症対策委員会)を改変

(1) 家畜伝染病予防法施行細則による

消石灰	生石灰に少量の水を加え消石灰にしても可
さらし粉 5%さらし粉水	
2%苛性ソーダ水 NaOH	海外悪性伝染病に使用 *ホルマリン、その他薬剤と混ぜない
2%苛性カリ水 KOH	海外悪性伝染病に使用 *ホルマリン、その他薬剤と混ぜない
4%炭酸ソーダ水	海外悪性伝染病に使用 *ホルマリン、その他薬剤と混ぜない
2.5~3%ホルマリン水	海外悪性伝染病に使用 *その他薬剤と混ぜない
3%石炭酸水	加熱溶解した防疫用石炭酸に少量の温湯を加えてかき混ぜ定濃度の溶液にする。
クレゾール水	3%クレゾール石鹼水
塩酸食塩水	塩酸2：食塩10：水88 20~22 で2日間浸す。
70%エチルアルコール	

* 著しく汚物が付着した獣舎や柵等は5%苛性カリや5%苛性ソーダか熱湯で洗浄する。

* 畜体はホルマリン水、クレゾール水で浸した布でふくか薬浴する。

* その他、火炎消毒、1時間の煮沸消毒、20%ホルマリン消毒、10%苛性ソーダ消毒等もある。

(2) 動物用医薬品として市販されている消毒薬(水産・養蚕等を除く)

アルコールおよびアルデヒド製剤

製 剤 名	効 能・効 果	製 造・販 売
グルタクリン	畜舎設備、種卵、手術粘膜用器具機材の消毒	ヤシマ
グルターZ	畜・鶏舎等の消毒、手術器具の消毒	ヤシマ

逆性石せん製剤

カチオデット DDC-AP	畜・鶏舎、搾乳器具、孵卵器具、畜・鶏体、乳房・乳頭、種卵卵殻、家畜診療、繁殖用器具機械、外傷・手術部位の消毒	三洋化成
クリアキル・ドライ	畜・鶏舎、搾乳器具、孵卵器具、畜・鶏体、乳房・乳頭、種卵卵殻、家畜診療、繁殖用器具機械、外傷・手術部位の消毒	田村
クリンエール・200	畜・鶏舎、搾乳器具、孵卵器具、畜・鶏体、乳房・乳頭、種卵卵殻、家畜診療、繁殖用器具機械、外傷・手術部位の消毒	デンカ
アストップ、アストップ 200	畜・鶏舎、搾乳器具、孵卵器具、畜・鶏体、乳房・乳頭、種卵卵殻、家畜診療、繁殖用器具機械、外傷・手術部位の消毒	科学飼料研
クリアキラー100・200	一般的消毒、獣医医療領域の消毒	田村
クリンエール	畜・鶏舎、搾乳器具、孵卵器具、畜・鶏体、乳房・乳頭、種卵卵殻、家畜診療、繁殖用器具機械、外傷・手術部位の消毒	デンカ
クリーンジャーム	畜・鶏舎、搾乳器具、孵卵器具、畜・鶏体、乳房・乳頭、種卵卵殻、家畜診療、繁殖用器具機械、外傷・手術部位の消毒	大坂製薬
サニスカット	畜・鶏舎、搾乳器具、孵卵器具、畜・鶏体、乳房・乳頭、種卵卵殻、家畜診療、繁殖用器具機械、外傷・手術部位の消毒	科学飼料研
デスマック	畜・鶏舎、搾乳器具、孵卵器具、畜・鶏体、乳房・乳頭、種卵卵殻、家畜診療、繁殖用器具機械、外傷・手術部位の消毒	ヤシマ
パコマ、パコマL パコマ 200・300	飲水、畜体、畜舎、手術野、器具の消毒等 手指、畜舎等、獣医医療の手術野、器具の消毒等	科学飼料研
パンパックス	手指、畜舎等、獣医医療の手術野、器具の消毒等	フジタ
ブクロール	乳頭の消毒	ヤシマ
ベストシール	畜・鶏舎、搾乳器具、孵卵器具、畜・鶏体、乳房・乳頭、種卵卵殻、家畜診療、繁殖用器具機械、外傷・手術部位の消毒	東洋製薬
メイクリア 100、200、300	畜・鶏舎搾乳器具、孵卵器具、畜・鶏体、乳房・乳頭、種卵卵殻、家畜診療、繁殖用器具機械、外傷・手術部位の消毒	科学飼料研
モルホナイド 10	畜・鶏舎、搾乳器具、孵卵器具、畜・鶏体、乳房・乳頭、種卵卵殻、家畜診療、繁殖用器具機械、外傷・手術部位の消毒	サンケミファ
ロンテクト	畜・鶏舎、搾乳器具、孵卵器具、畜・鶏体、乳房・乳頭、種卵卵殻、家畜診療、繁殖用器具機械、外傷・手術部位の消毒	科学飼料研

両性石けん製剤

エイトール	畜舎等、搾乳、孵卵器具、乳房、卵殻、豚体の消毒等	ヤシマ
動物用ネオラック	畜・鶏舎の消毒、搾乳器具等の消毒 踏込消毒槽等	有恒薬品
パステン、パステン CMX パステンコンツ	畜・鶏舎の消毒、搾乳器具等の消毒 踏込消毒槽等	養日化学

クレゾール類製剤

コックトーン	畜・鶏舎の消毒、踏込槽の消毒、コクシジウムオーシストの消毒、ハエ幼虫駆除	三共
トライキル	畜・鶏舎の消毒、踏込槽の消毒、コクシジウムオーシストの消毒、ハエ幼虫駆除	田村
ネオクレハゾール	畜・鶏舎の消毒、踏込槽の消毒、コクシジウムオーシストの消毒、ハエ幼虫駆除	明治
ヤシマゾール	畜・鶏舎の消毒、踏込槽の消毒、コクシジウムオーシストの消毒、ハエ幼虫駆除	ヤシマ

ハロゲン塩製剤

スミクロール	畜・鶏舎等の設備、畜・鶏体、家畜の飲水の消毒	有恒薬品
アンテックビルコン S	畜・鶏舎の消毒、搾乳器具・孵卵器の消毒	バイエル
クレンテ	畜・鶏舎等の設備、畜・鶏体、家畜の飲水の消毒	日産化学
動物用ハイライト	畜・鶏舎等の設備、搾乳器具、孵卵器具、畜・鶏体の消毒	全薬
ユーコーラック A	みつばちのチョークブルード予防	有恒薬品
ラクトシール	孵卵器具、畜・鶏体の消毒、下水溝、尿溜の消毒	全薬
イソジン液 10%	乳頭消毒、外傷、手術部位の消毒、子宮消毒	明治
クリーンリー	畜・鶏舎等の設備、搾乳器具、孵卵器具、畜・鶏体の消毒	明治
クリンナップ A	畜・鶏舎等の設備、搾乳器具、孵卵器具、畜・鶏体の消毒	甲陽化学
動物用イソジン液	乳頭消毒、外傷、手術部位の消毒、子宮消毒	明治
ファインホール	畜・鶏舎等の設備、搾乳器具、孵卵器具、畜・鶏体の消毒	東京ファインケミ
ポリアップ 3、16	畜・鶏舎等の設備、搾乳器具、孵卵器具、畜・鶏体の消毒	協和発酵
ヨーデット	乳頭消毒	三洋化成、藤沢
リンドレス	畜・鶏舎等の設備、搾乳器具、孵卵器具、畜・鶏体の消毒	ファイザー

複合製剤

ゼクトン	畜・鶏舎、踏込槽、鶏コクシジウムオーシストの消毒、ハエ幼虫（ウジ）の駆除	ヤシマ、 エーザイ
アリバンド	畜・鶏舎、搾乳器具、孵卵器、種卵の消毒	甲陽化学
オーチストン	踏込槽、鶏コクシジウムオーシストの消毒、ハエ幼虫（ウジ）の駆除	科学飼料研
c.p.p	畜・鶏舎、踏込槽、鶏コクシジウムオーシストの消毒、ハエ幼虫（ウジ）の駆除	養日化学
トライキル	畜・鶏舎の消毒、コクシジウム・オーシストの殺滅、ウジ、ボウフラの駆除・発生防止	明治
ベルバン	畜・鶏舎、搾乳器具、孵卵器、種卵の消毒	ニッチク
北研ゼット 北研ゼットコンク	畜・鶏舎、搾乳器具、孵卵器、種卵の消毒 畜・鶏舎、搾乳器具、孵卵器、種卵の消毒、踏込消毒槽	東邦化学
ワンショット	畜・鶏舎、搾乳器具、孵卵器、種卵の消毒、踏込消毒槽	ニッチク

ジクロルベンゼン系製剤

コックトーン	畜・鶏舎、踏込槽、鶏コクシジウムオーシストの消毒、ハエ幼虫(ウジ)の駆除	三共
動物用タナベゾール	畜・鶏舎、踏込槽、鶏コクシジウムオーシストの消毒、ハエ幼虫(ウジ)の駆除	大阪化成
動物用ネオミケゾール	畜・鶏舎、踏込槽、鶏コクシジウムオーシストの消毒、ハエ幼虫(ウジ)の駆除	三井化学
動物用バイゾール	畜・鶏舎、踏込槽、鶏コクシジウムオーシストの消毒、ハエ幼虫(ウジ)の駆除	神東塗料
トライキル	畜・鶏舎、踏込槽、鶏コクシジウムオーシストの消毒、	明治
ネオクレハゾール	畜・鶏舎、踏込槽、鶏コクシジウムオーシストの消毒、ハエ幼虫(ウジ)の駆除	明治

農林水産省動物医薬品検査所 動物用医薬品データベース(平成13年3月1日現在)より抜粋
<http://www.nval.go.jp/kensaku.html>

(3) その他の消毒作用をもつもの

強酸性水

水を電気分解して生成した水。

pH2.7以下、酸化還元電位(ORP)1100mV、残留塩素濃度20ppm以上の水で微生物の育成環境を超えているため強い殺菌力を持ちます。空気に触れると急速に分解するので、悪臭や環境汚染はありません。

しかし、開封すると急速に効果がなくなるので、あまり保存できません。

オゾン

オゾン発生装置で、酸素分子が3個のオゾンを生成します。オゾンは強い酸化作用があるので、殺菌・滅菌し、分解するので、悪臭や環境汚染はありません。

しかし、高濃度のオゾンガスは肺水腫等の呼吸器障害をおこすので、取扱いには注意が必要です。

付属書 8 . 人と動物の共通感染症・家畜伝染病発生施設における対策本部組織図

対策本部長

